

タイトル	<i>The Little House</i>				
著者（文・絵）	Virginia Lee Burton				
出版年	1942	出版社	Houghton Mifflin Company		
翻訳版	『ちいさいおうち』（石井桃子訳）岩波書店 1954 年				
総語数	1,335 語	ページ数	42 ページ	YL レベル	2.5
あらすじ					
<p>昔々ある田舎に Little House がありました。丘の上に建つ Little House は、心優しい一家と共に自然の移ろいを日々感じる幸せな生活を送っていました。でも、時が経つにつれ、Little House のまわりは町になり、人も車も増え電車まで走るようになり大きく変わってしまいます。そのうち Little House は、とうとう騒がしい架線下に追いやられるまでになりました。穏やかな日々を懐かしむある日...</p>					
紹介					
<p>作者の Virginia Lee Burton (1909-1968) は、アメリカ、マサチューセッツ出身の絵本作家、画家です。<i>The Little House</i> でコールデコット賞を受賞しています。</p> <p>本作品は古典中の古典絵本であり、詳しく紹介をするまでもないでしょう。私が小学校に入学した年、いつもは教室で授業を行うのですが、ある日、担任の先生は私たちを図書室に連れて行き、「何を読んでもいいわよ」と読書を薦めました。その時、私が選んだ本が、石井桃子訳の『ちいさいおうち』でした。記憶力の悪い私には不思議なことですが、それから何十年経っていても、なぜか、この本の装丁とお話ははっきりと覚えています。それだけの魅力がこの絵本にはあるということでしょう。それに加えて、多読同様に読みたい本を自分で選んだという体験だったことも記憶に残る要因だったのかもしれない。</p> <p>数年前、学生と一緒に英語版を読んでみようかと思い立ち、何十年ぶりに <i>The Little House</i> を手に取りました。どのページも懐かしさでいっぱいです。ひとしきり感動し、一段落すると、イラストの細部に目が留まりました。四季それぞれの動植物、太陽の運行、月の満ち欠けの暦、北斗七星を中心に星々が輝く夜空、さらに、手前から奥へと読者の視線を誘導し、遠近感と流れるような動きを感じさせる構図の巧みさは、まるで葛飾北斎の浮世絵のようです。平面でありながらダイナミックな動きがあり、時の流れ、人の営みやその変化がスピード感をもって表現されています。</p> <p>さらに考えさせられたのが、自然を変えてしまう人間の生活です。この本が出版されたのは 1940 年代、その後、子どもの私がこの絵本を読んだ頃、日本は高度経済成長期で公害が大きな社会問題となっていました。さらに時代が下って、出版から 80 年近く経っても、都市化に伴う自然破壊、居住環境の悪化という問題は全く変わっていないどころか、</p>					

地球温暖化という重い課題を現代の私たちは抱えているのです。自然をこよなく愛した Burton が生きていたら、どう思うのでしょうか。

田園と都市、消費社会、住環境・生活様式・職業の変化、自然と科学技術、自然破壊、公害、地球温暖化、スローライフ、幸福など、本書をきっかけに SDGs (Sustainable Development Goals/持続可能な開発目標) をはじめ多様な議論ができるでしょう。

指導ポイント・授業活用例・学生の声など

絵本にしては、語数が多めですが文章自体はそう難しくありません。文法項目も過去形に注目するくらいでしょう。表紙絵の Little House の下に Her Story とあり、本文中に代名詞 she が使われていることに、読者も気づくことと思います。人以外のモノや動物に she/he を使う場合があること、it とのニュアンスの違いなどにも触れてみてください。

あれこれとアクティビティーを行うよりも、読み聞かせをした後に、前述のテーマに関するディスカッションをすることをお勧めします。

関連作品・参考 URL

バートンは、今も変わらず人気の作家です。2018 年春には、東京・銀座教文館で写真パネルを中心とした展覧会が開催されました。以下の書籍で、バートンの人となりを知ることができます。

- 『ヴァージニア・リー・バートン「ちいさなおうち」の作者の素顔』バーバラ・エールマン著、宮城正枝訳、岩波書店、2004 年
- 『ヴァージニア・リー・バートンの世界』ギャラリーエークウッド編、小学館、2018 年

本 HP に解説がある、Donald Hall & Barbara Cooney の *Ox - Cart Man* も併せて読むこともお勧めします。

(文責：草薙優加)